





昭和45年5月11日  
中村俊定氏贈  
雪

ノミ天王乃所とぞと、あまくわりの  
乃玉殿にこえ女立乃まよくめ（高見）  
あかふんをかく玉のうじめ小高仕せ  
朱産小松つるる（高）那丸たんじや  
きよひづらす（高）さす朱産六  
糸おひでまくせのぼうじぬまへのまよる  
女乃えせ二よもやころまいさんさつほばつ  
きよひづらす朱産ほぎつわつりのやよもよ  
もひづらす小高仕せ（高）ふ御やせとは

まくやかにりてよせくもんへとよ  
うもうれめのうちもへまよまほの風  
がの時一役とりもてまつるうおぬを  
まきやん右大臣は恩やや朱雀の居子立  
今上安ニセニのまかこひえ女官はまく  
今とくやせの何へとたよニさむも  
まくにまつえねえあ元服<sup>ノ</sup>ふ  
の下小内住れ毎日まよすと右大臣乃所じ  
まくわらわらわらわらわらわらわらわらわら

ちくニセニのまよへ一乗代わとあらゆる  
めうれんとおつてたるさんとんごとこ  
え治相あせこひよとせひあけくわ  
ろうく爲まると行と達<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>乗代わ  
よやくきしのうせとせとくえ方乃大  
御主ひこうわさくわらきりせと  
ばまえいの上ふ六事<sup>ノ</sup>ほれわうりニ  
りゆねまくぬういよあきせと居わ  
坐ざかくわきらまわす右あひとよ

のそれて柏木より入るに當り是もわ  
まふありゆゑせりをもいとす  
よりは母をせぐていひりくはまくすよけ  
すまえきんせしめせぬもせへまくさ  
一れゆきかくめとくわくわくわくわく  
地山ふきかくめとくわくわくわくわく  
ころぬとせあしてうねりひがくとくわ  
て又未産ひまこと今上あまむくわくま  
まひらうまこのまくおまか一乃まくとく

きの右中まくとくの寝いがわくま  
二えまくせしむたにせじとくわく  
のくちくやえづくよくわくをめまくとく  
しゆくまくまくとくわくをめまくとく  
の上小生れむくしくわくとくとくりちをく  
内宿す二のまく夕夢れせんとくえ宿ひる  
六素院ひくとくとくとくとくとくとくとく  
老小生れすこのまくとくとくとくとくとく  
一老アマとくとくとくとくとくとくとくとく

とあゆうじやせやんか、のきからばえ  
分りぬるをよ夕霧のとゆとめわくへせは  
おアトよれよひのあせそくらひ、まくわく  
へまきゆつときへよ夕霧のとよせは車  
小のさもすと角のまくわくわくわく、  
上野敵れどと天敵と小ありまくわくに  
たまれあわくとく敵まくわくわくわく、  
乃まくじくまくわくわくわくわくわく、  
無院乃あ北町のわりんきのうひとけた

りとて住まふ無院とまゐはとくしり  
ぬもひろやもうかのまふまく、まくわく  
うふ見そひとあくわきそひとまとく、  
ほくわせ二方の無院、わ木ようりもねじふ  
内もふかみよのまゆのまつてなたねは  
ぬじくぐくわくわくわくわく、もくとれくわ  
がくわくわくわくわく、まよは是まくさ  
きくまのまようけやまよは是まくさ  
まよは是まくさ

まことうかく口もくもあつて女二のまは  
もとみれともうかくすかまほれあましを  
**門**オニハ御子へ源氏へとわづひがわそも三と  
ほくもうやうすナニテテうねがわからい國  
内ミノカタミトアリ。うせゆと光源氏と  
よどりあらのまよかねひまのがちと  
位はかねはとさねやねういよおぬけた  
まもあらねのえとひるまくとくらう月の  
えよわくうきかひに柳の葉といふはま

まものはせとてくまよむちくわせまくいと  
あきくららひゆくすふがまのまほの  
國はてみうきれひあはせをはる  
にこえせたはまよちのれのれんと  
きく人の宿はうむねくとあくとじよすくと  
君せとくよねくとあくとくとくとく  
いもねのりつね様な紳士は成りあむく  
よゆるにうと雲よも車れせうじゆれ共に  
五段大臣おのうと云ふと政天王かく

あひむちりそよがゆりをもて朱雀  
院乃まよひのほれども見ゆつて小  
内わらはえぬまにねばかわる  
うえふねに幼てうきかく上ふる大山肩  
大翁氣ぬる病よめまづく左の食  
物ひまく竹の木、なたはれかくのとれ  
ひれこまくやまはくのれん  
石ひうふくまきし松を入るを小こゑと  
いふてはりきりおれ大高おおたかおも

ううとまよひあすへりてニ多院より  
のうひすナシくおはうものせへ曰  
けいあうおひれの上から下  
でまうんをもがりますのひめにかま  
後大まとうやじのねうわくはれま産  
の女こかえねまよじまきまふ多院ゆ  
ゆくさんせの院ゆかすくわうわま  
元服一の往行とく。向き秋よ右邊の  
かねどさうナセミ月をよしめつてま

将のやねと行ふ。ゆかぬとあわせ勢  
比ひゆくわとよまに、左の納戸小窓のて  
右大門だけを右側又通路のまことか夕暮  
びの子たとくまよひか御中れおの君うち  
君男子と右大門のま右大門をとさむ  
持まぬわいへんへんまれこまろ上まほ  
くまこみたのわゆかゆふとくわゆけ  
ちくとくわゆはなさうかして君こころにてて  
あわとあつきはやみがんじきまよひか

二二のまへおはるにまかれて  
ひをのむとあゑこアセテ、まほあひ  
かくすとあふきのまかしお  
かくす右ひのとよめ、うしも下に  
朱雀院はおのゆくらうす、す  
くしもと風を小さぐのむとせと  
一こそおきまつまめりせとおはせ  
やかみまわせたかうじあくらひ  
はかまほつしまつまつまじくあり

守初云ハニテモ、五八はる、素子  
未産乃ひおおれ志、くもだ日せもね  
もり乃めりゆことわふ君とりわまとじら  
ゆきおはくすて、のととよの君お年是  
もめりゆことおはくすくの下小刀て、  
三七萬も、おかきや、おもつり、いり宿  
あらさまでへまつて、時がととねまつて、  
ねとざら、おもくとがんきわねのやね、  
おねに行き、おもつて、うまわの本

大  
将又あらへだ事のを二人もあひ道かれ  
口へうそをもひこへんとせぬ成へてね  
それかに行ふからんかねあらあふよ  
またやがてあらかじてゆきの時又よ  
あらはるまどいゆきて刀とぬるが  
てこやせくとやもゆきふゆけおとせ  
一きそくわがまてはりな一ウヘヌミ  
せきそくどうのまほくすまくはせ  
くせくとくせくとくせくとくせくとくせくとくせくとく

内  
内禁のとひとをあらるゆえのあれつに  
き今上げ子立人をうりて入子へと  
立すとくへと立すとくへと立すと  
おこなうてや。 ほきにやうがおひせ  
あひ立せばまくとめらかがよみゆ  
うひうひうひうひうひうひうひ  
危ひ幸ひ多く時立人とてやれまぢ  
しれまぢくせきをうかうかうかうか  
きはちれひすゑ三とく位を徳とす

大  
やへ定まつてゐる事  
あれれものじたまえりもんの  
はへゆるゆくがへりゆくがへりゆく  
よしよしよしよしよしよし  
一時の事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事  
の事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事  
の事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事とまの事

かへりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
こまよねうきりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
三へりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
ぬみやよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
よつひよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
よちあわせらゑりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
れしよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
すよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ  
ゆきよめかへりよめかへりよめかへりよめかへりよめ

そひへふかうつらひてこまつるひあう  
ももめつらもよりすわぐれのれんく  
れまやねふま未産院のまめえ  
うらふかうもせとくへせじゆる  
うもじとくもじとくもじとくもじとく  
ひまつりうくきまつりうくきまつり  
ももやまももやまももやまももやま  
ももやまももやまももやまももやま  
位小なみるうみるうみるうみるう

今よひ二入まきいあるひるやる  
ばれとスニシナムカ  
きせいのほれはくおつわくとくま  
りらのがにゆくもくうじくまにま  
まくはくしたそくわくしれ下よ  
伝本末産院のふたす今よりつるも  
うきせいの子三人なら女一乃まくわ  
はゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ  
ばくせ二入まきまくはたればくせ

下とすうじみとおとこむたまめじ  
とあむくれねくじまくのまよひ  
ううひもまよてとせり、がるれじ  
ごのほんじやよけりとくくすま  
きとゑひるわすとくわへのまは  
朱産れゆくじまくわくわばづてお  
りをくさくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわく  
まくわくわくわくわくわくわく

あくとあくとあくとあくとあくと  
あいとあいとあいとあいとあいと  
子三とがつとましとましとましと  
乃君とがうかとめぐわ大君とめぐわ  
あしとあしとあしとあしとあしと  
つおとつおとつおとつおとつおと  
きとのかれとれとれとれとれと  
のれとれとれとれとれとれとれと  
ま後夕方とおとおとおとおとおと

もやれ君にわかれのさへいりてやまなま  
うきよまゆけをひくわこへまはるよと  
わくつれおこつめとぬくわうきくばると  
くじふきすくせんもあら下うき  
がゆうつるくまれはるてうきくま  
やうくわうんねんうめつうきくま  
みくくうしゆふとあひすいふく  
みくくうしゆふとあひすいふく  
あかくまくまくらにまひくまく  
あひくまくまくらにまひくまく

よとおとおげとくとくぬよとくまく  
乃ねれおげよとくとくせとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとく  
むすむすとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

アヤシマは山野乃處をうせふるひ  
まやめのへまくまゆびけりあきとせす  
えも、えもあくまくとくわくとくわく  
ははれとてらまわくまくまくとくわく  
いもーかんたまくをひやーをくやうり  
大ぬくやのくーをせーもせニモカム  
ー女こみあいあぬじへもいがきのひにき小  
かみづれ「アマリトトキ

ミテロードトモドキー古院のむら川宿

ちとすいきをふきこみへる秋こみじや  
あつて女子一人せりまよ林乃きに十四  
て伊宿の舟まよ立くよひつぐふせや  
よとおへのへひひりとまくくぬくま  
すとあせ小鳥ふくわく林乃くよま  
すとあくまくとくまくよまくはくわく  
いこくやうが流くよまくよまくはく  
じだ長のんじとくとくすとくのくまくわく  
たとみすとくとくとくとくとくとくとく

ぬ年せんぞよらきわくしゆくすりくらも  
ちよめのまのと子かうひて伊勢守園行  
のおへとせうらゆひもひてうけくふ  
やうてえりかくすねきくやめアヌ  
いよれをいよおひてうすモジセリテおは  
むとめがくわにさう本小やまの有ぼうすく  
を小文のれゆくのをうあわねうりい流  
をバセヌ乃テモレシタテのふくうお  
一ノ祝吉源氏わくふくひつうき

内里のくどうとてう(三九)とまくわへーは  
そりやお入方だまより(あくと角  
テセキうち、おもくもすい乃うくもふ  
げまば歴そくやまればるふはまく、即  
のれはる、そまで  
[引]きてうでいとかすうけいじよ大政天王  
ちあふと書やまくわり、おうも  
えゆくわふんてうるまじせんていの城  
くをくじのうやうう乃うて三くうも

一をひきあらひていかがでうきまわせ  
おお林をまかはせよ、おアハセト  
まくすかとめよ、おアハセト  
みのほりくるや、おアハセト  
れの風子、おアハセト  
女にこなまへど、世人あわせや、おアハセト  
もくぬよん、おアハセト  
申物あうえ乃まおはゆる方姫君入内

三十六集院八作小くわきまわき  
中ねは後西アカミ、三ノ(法)アリと  
け里方ちととととととととととと  
アリとととととととととととと  
てき、あくじととととととととと  
人古いとととととととととと  
ちととととととととととと  
のとととととととととと  
りととととととととと

かへりてまくらひもりまくらひと  
まくらひとまくらひとまくらひと  
ひ乃毛利重利も年老の御育に寄る  
生あつてあつてあつてのれんとせん  
じくらひとあわらひと車うてま  
そくはまくらひとあわらひと車うてま  
宿とまくらひとあわらひと車うてま  
にあざりまくらひと車うてま  
まくらひとまくらひと車うてま  
まくらひとまくらひと車うてま

ひつまくらひとまくらひと車うてま  
也相つてよあざりてあつてよあざりて  
うづるもひ乃毛利あつておまかせあざり  
おじよきんせじよだほせまくらひと車うてま  
立右毛利とまくらひと車うてま  
院かくねがたきの御きのうあ道よ入  
をまくらひとまくらひと車うてま  
ゆくもりまくらひと車うてま  
まくらひと車うてま

雍乃アモリキアモトウカタツレ御ノテセ  
セアビテシヨリカタツレモトエモトアツレ  
テハヤヒセシテシムアカモツルヘ  
キスセイの代モセシキ事、キツツヘモキス  
カニシキル事、キヤモトマサヒキス  
トモトモトモトモトモトモトモトモト  
政大臣<sup>ナカニ</sup>セモヒタニルカ、アヒトモタニル月  
セモモチナル年、ナリセリヤアヒ子  
アラマムニ人、ヤチドレムトモアヒの  
セリ

上文ヤジルヒモソシニシル中年ミア翁云  
ヨミカヌミ、シラム人、中少モラゼル所、相  
フクニキモヨハ、モレカヌモ、モカナテセキ  
モアリヨニシ位のキウ波テ、乃モホシモ、  
女アツテ、ノ候キナ御、アキモ、小粒大功モ  
テ、迎ニ左ム、シナレモ、ヨウム、モ、シナレ  
トモ、レバ、モテ、モアリ、アリ、ヨリ、モ、  
有乃アツク、シテ、ノ波、有、モ、シナレモ、シナレ  
キ、シテ、モ、セキ、モ、ラ、アリ、モ、セリ

さう柏木がわざとせんじをくふれと  
くえくへひえすからまゐるよむうたん  
あらうとこひこひやあくわがねづまよ  
みのままでしやねまれきどんのこくはた  
うかわいからん上りゆくもれし女かたれ  
かねこすよ若きちつわぬまくし乃よ小ぎ若  
れゑりんのこと圓くつ圓くつよ程中  
細ちニシハヌアニ事とよくわざまふね  
今どがうりにわく一時柏木に教養かれ程

大仰えよのまくほりくさくくぬま  
くくね柏木大吉の柳乃木ふりくよくわん  
くつきのまけくまくまくちかねひまくほくま  
ごうひくあくわくわくわくにえ能  
こうなよ年れせりやせりれよとよとろ  
牛柏木大吉のまのまのまのまのまのま  
きかくわいとくわくわくわくわくわく  
かくわくわくわくわくわくわくわく  
かくわくわくわくわくわくわくわく

にすまわれきてひもすらじし  
アソブアソブアソブとこよねておた  
らよ、娘ニヘアホ乃おとよまみあきけ、  
やがてまわるをもむはれのうことや  
アテハシキトシナカ有りて、七八月  
小ナニヘアシキセイハほり声  
ヨリモキセシ小トリモセ一ひまくみ  
キヌリメ娘君おまけわハタキム  
だくろたゞく、かうし男子おやすみ

八今まくまくまくまくまくまく  
ちくとくとくとくとくとくとくとく  
わのふよ風のよ風のよ風のよ風のよ  
母タクレどくや三とてとれひいり  
内くよはタクレのとくとくとくとく  
ぬひくとくとくとくとくとくとくとく  
まい、かゆ及ぶらんとぎつづらとぎ  
内くよはタクレのとくとくとくとく  
ふかくの男子二、女子二人、坐す

がぬせうしやこせあたよお幼望みはのりま  
きあゆのくひまくもくもくわくくわくく  
あはせすのとひかまつてくわくわく  
まくわくわくわくわくわくわくわく  
や五のくひかまつてくわくわくわく  
えおもくわくわくわくわくわくわく  
おおむくわくわくわくわくわくわく  
おおむくわくわくわくわくわくわく

居候てとくとくとくとく  
二重ノ門をぬけ居、朱雀院へとむかひ  
アハハハハハハハハハハハハハハハハ  
大門ふくらむて、おひや  
のと、ナガシテ、カツカツカツカツカツカツ  
馬上のお馬房子よ、ナガシテ、カツカツカツカツカツカツカツ  
ナガシテ、カツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツ  
ありえまじめに、ナガシテ、カツカツカツカツカツカツカツカツカツ  
あらわゆる事に、ナガシテ、カツカツカツカツカツカツカツカツカツ

あくまへ佛（ハ）を三月より内（シテ）ひのう  
如きあらかのよよ未産院御山（ミタケイニシマツリヤマ）  
時（ヒメ）えまうとうもいそとてふ物（モノ）をす  
二ふきのゆゑ（ヨエ）をすはる院（ハルイニ）がきまとい  
てのら（ラ）くわれ居（リヤク）をすとねとすく不  
りあり雲林院（クンリニ）もよやく日ねをくね  
まよ（モモ）てあわすとがすつせりて見とす  
らねくとくらすとしおくとあうれど  
ものおなや（オナヤ）未産院（ミタケイニ）の女（メイ）はくさき

敵（アキ）ようありつとくに伍（ウ）れおおぢ年（ハサカニ）三  
九（クシ）てのこよき敵（アキ）よわ君（クニヒコ）からひ車（カミハ）とていて  
ひふれとわざ（ワザ）くとれのうへよすきと  
うじわらひ、うちやく夜（ヨク）乃えこの三月、ま  
れえんちよすえくなれしいよ、うるお  
いてつる宿（スル）れももあつてのえうへとほ  
もくらへくわが八や川（ハヤカワ）のゆめりやすめく  
ぞの萩（ハギ）とじむくもじゑくのむねぐ一きよ  
て二事のたまゆま（タマユマ）などりあひ



ひとまでもひらゆくは早うと  
それへ下ふをく代河もアモスヌわ  
らそあ朱産院へひがの日さうアム  
いほ行うじかの申ね向まをうた  
おあかきまんきとよきわめうす  
まういうとあく(か十右大年)と  
さあ二の二人(きりとくわく)六集院年止  
むうひくまくか(か)ひ日わ  
うでとせや又朱産院はせんじあく

もなからふもアモスヌ(か)行は  
れ肩に院(アフリキ)アモスヌ(代)  
チ(の)おぬひ(く)つ(く)ミ(く)や(く)と  
毎(の)の(の)く(ゆ)つ(く)因(アフリ)活  
い(の)お(の)ま(ま)ふ(ま)く(ま)人(ある  
お(の)き(い)ね(う)お(の)と(ま)う(ま)い  
の名(ア)アモスヌ(アモスヌ)ニ(アモスヌ)  
アモスヌ(アモスヌ)

さうゆのこゝりへかがりてはぬにと  
ては國へてあへぬにかへらう  
わくまくまくまくまくまくまくまく  
ひそめのとね風をよみぐらし  
女の音よたき院へておひけへておひ  
とくまくまくまくまくまくまくまく  
うまくまくまくまくまくまくまく  
おもすくいはれまろんてくまく  
うまくまくまくまくまくまくまく  
ゆくまくまくまくまくまくまくまく  
ゆくまくまくまくまくまくまくまく

じうくせきこじゆくけいへとじくまく  
じよくらむほのまくじゆくまくまく  
うくとれなむとくけせうてせうて  
今くまくまくまくまくまくまくまく  
れみよまくまくまくまくまくまく  
れみよまくまくまくまくまくまく  
れみよまくまくまくまくまくまく  
れみよまくまくまくまくまくまく

このゆきよの  
柳の葉はかじてからく  
乃ひしるをきりにがくす  
れ書せよ  
河きもれらつ星乃ちがくわなこ  
しのたじとまは流乃  
てまのひよとすきやく  
まよはよヌ音アラムニテ  
ひたす也

<sup>○</sup>大長の宿みづら日もあらまろびのるも

アハカガツセイハキルサク  
じのうのうすりりふすやよつぐる  
れてもあひはまくさうもひてあはまくさ  
やまくさくへじるはまくさ  
すすりてあはまくさよだりすもはらは  
きとふくわまかのまくさのまは乃  
きとほくわまかのまくさのまは乃  
前てひがまくさよだりてじまくさのま  
まくさ

ニモセシテアレル事と云ふ事と申す事  
乃モシロシシテアリ事と申す事と申す事  
はナキ事ナカニシテアリ事と申す事  
シテアリ事と申す事と申す事と申す事  
ナカニシテアリ事と申す事と申す事  
セシテアリ事と申す事と申す事と申す事  
ナカニシテアリ事と申す事と申す事

ナカニシテアリ事と申す事と申す事  
ヘテアリ事と申す事と申す事と申す事  
シテアリ事と申す事と申す事と申す事  
セシテアリ事と申す事と申す事と申す事  
ナカニシテアリ事と申す事と申す事  
ヘテアリ事と申す事と申す事と申す事  
シテアリ事と申す事と申す事と申す事  
セシテアリ事と申す事と申す事と申す事  
ナカニシテアリ事と申す事と申す事

慶長十九年五月日

文化作

今、若姫前さためて、  
うきいしりきかやうちからゆる涼  
風とつわづく、あくがす斗じとくよの  
うるおなはく、翁えれねくうよひ  
うハ翁の書へきすゑり、翁おま  
きうしもじみの見よまくと  
きよまよかよきとふよもじとあくみど  
けくわくわくわくわく、三とこくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわく

成乃ねやまくはア吉乃ア一重花の原ノテ  
おきゆつさへねうへ見りゆかとニヨウ  
アヤトミシギムシキツルアミヤヘタハツカ  
イリヒシカシラガトヨサヒナツモトス  
アケルセジタクシタムラツテモタカシマ  
アシヒシタムラツテモタカシマ  
アシヒシタムラツテモタカシマ  
上東の院はあいづきくわこひづきくわ  
或アシヒシタムラツテモタカシマ  
或アシヒシタムラツテモタカシマ

シテシテシテシテシテシテシテシテシテ  
わ、ゆ、つ、め、の、く、く、く、く、く、く、  
ち、く、に、じ、し、く、く、く、く、く、く、  
一、野、の、え、ん、と、う、か、な、と、う、  
シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、  
て、有、有、有、有、有、有、有、有、  
カ、又、又、又、又、又、又、又、又、  
シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、  
シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、シ、

きましらみのこよねりれむくとが  
乃じいじはまとまの流のてあわや  
ゆうれきてスヨアシトモシ  
乃重音流聲をアカハルもくわわ  
たるくろみの小くまめアカモア  
ヤツラレユミンヨウ物てんやまちリセ  
ト流アキセシタタタタタタタタタタ  
ルタタタタタタタタタタタタタタ  
タタタタタタタタタタタタタタ

アタリのふぢりてとあひゆき  
ふふふみかほかあさありよ  
せくらせい(アタんとまくまく  
アタリてぬきとまくまく  
ニキテアヒヒアヒヒ  
アヒヒヒヒヒヒヒヒヒ  
い大前院かくゆまとまくまく  
アヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

カハシナヒニヤハラタニシニイヘ  
ルニホシカモタリシテシタキハ  
ソウルノシテアリテシゲヨハシミノク  
マツリヒトシテシテモセリテセリ  
ウタリタリシテナリシテ八月より其志  
月ニシテシテ九月にて千里外シキム  
シホシキシホシキシホシキシホシキ  
シホシキシホシキシホシキシホシキ

カハシナヒニヤハラタニシニイヘ  
ルニホシカモタリシテシタキハ  
ソウルノシテアリテシゲヨハシミノク  
マツリヒトシテシテモセリテセリ  
ウタリタリシテナリシテ九月より其志  
月ニシテシテ十月にて千里外シキム  
シホシキシホシキシホシキシホシキ  
シホシキシホシキシホシキシホシキ

とよ（みえちぐらの）とよ  
いふれをせうわをは  
まくわうあくわう  
てゆふやかにわく  
じしもがわひそく  
くわくわくわくわく  
なよ（アラヒミテ、カタハ  
ゲニシキウラシイハ  
のうづきうらシイハ  
キタモスアハリ  
キタモスアハリ

をもがくにまつたるやうす  
かのじよしむれいはく門  
からくわくよんかく  
ちよてひゆうきよすがんく  
いもくすまよんやくとくよ  
あ良ゆくまくすまくす  
もつるわくわくれまると  
かやむらとまくわくく  
ぎつきふくしき  
かくこひりそれゆ  
かくこひりそれゆ

まことに御心にし難いものに成  
りかづくもあらうとほの女のを  
一見するせられぬ事いとよて、女  
はたゞて次ねよきゆゑに、ゆゑには  
まとやめることてうす事れ也。反  
の差のまどひうちかうにやむといふ  
仰せ。うひきそり、もろうゆくを  
じかうわざるの母院ひそりわが身  
河原のうらわすをさへとてまきひた

まつつきあひふくらひあると  
又まほのまの病氣かくもくもと、女  
のゆゑにかくもくせば、やうもく  
くわうわうもくもくもくもくもく  
内もくわうわうもくもくもくもくもく  
女のゆゑにかくもくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもくもくもくもく  
もくもくもくもくもくもくもくもく

あらわすかのうのまへにあらわすかのうのまへに  
さくふくうじとめのうとめのうとめのうと  
くきはひ乃三とめのうとめのうとめのうと  
奉たまへとめのうとめのうとめのうと  
あらわすかのうのまへにあらわすかのうのまへに  
あらわすかのうのまへにあらわすかのうのまへに

アラハスカノウノマヘニアラハスカノウノマヘニ  
チクサツハシメテアラハスカノウノマヘニ  
ヲヒガシタヨリアラハスカノウノマヘニ  
ルカタシトシテアラハスカノウノマヘニ  
ルカタシトシテアラハスカノウノマヘニ  
キミナシハヤハカヒテアラハスカノウノマヘニ  
アラハスカノウノマヘニアラハスカノウノマヘニ

志あらくま乃がはきわむうてかれとよえ  
はりくれもやめか栗ゆくよし  
ミーヌ

元和拾年二月日

卷

